

御子に子(新しい創造)

S308, S310
S311

<昇天着座>

- ・万物を支配
- ・御子が座につく
- ・父-子

支配する 望み

御使い - 御子 右座
しもバ 子 万物の支配者

1 神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました。2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保つておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。

24:29

0-21:2

(Rev.)

14:17

Ps 110

14 御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため遣わされたではありませんか。
13 神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。
「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていなさい。」

Ps 102

12 あなたはこれらを、外套のように巻かれます。これらを、着物のように取り替えられます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。
11 地を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。これらのものは滅びます。
10 またこう言われます。
「主よ。あなたは、初めにあなたの御国の杖こそ、まっすぐな杖です。あなたは義を愛し、不正を憎まれます。それゆえ、神よ。あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました。」

Ps 45

9 神よ。あなたの御座は世々限りなく、あなたの御国の杖こそ、まっすぐな杖です。あなたは義を愛し、不正を憎まれます。それゆえ、神よ。あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました。
8 御子については、こう言われます。
「神よ。あなたの御座は世々限りなく、あなたの御国の杖こそ、まっすぐな杖です。あなたは義を愛し、不正を憎まれます。それゆえ、神よ。あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました。」

Ps 104

7 また御使いについては、
「神は、御使いたちを風とし、仕える者たちを炎とされる。」
と言われましたが、
「神の御使いはみな、彼を拝め。」

11:17

Ps 2

またさらに、
「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。」
6 さらに、長子をごの世界にお送りになるとき、こう言われました。
「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」
4 御子は、御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使いよりもまさるものとなられました。
5 神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。
「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」

子と相続
x 御使い

(旧約)

<十字架・復活>

- ・死から救う.
- ・救いの冠と受ける子.
- ・子-兄弟.

従う. 仕える. 信仰.

(使徒行伝) 6:1-

2

1 ですから、私たちは聞いたことを、
 11 ますますしっかり心に留めて、押し
 流されないようにしなければなりません。
 2 もし、御使いたちを通して語られたみことばでさえ、
 3 堅く立てられて動くことがなく、すべての違反と不従
 順が当然の処罰を受けたとすれば、
 4 私たちがこんなにはすばらしい救いをないがしろにし
 たばあい、どうしてのがれることができません。
 5 この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、
 6 確かなものとしてこれを私たちに示し、
 7 そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまの力ある
 わざにより、また、みこころに従って聖霊が分け与え
 てくださる賜物によってあかしされました。

肉を従う.

(→新)

肉がよい.

従う - 肉を従う.

4:15

と云われます。
 14 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、
 15 主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。
 16 これは、その死によって、悪魔という、死の力
 を持つ者を滅ぼし、
 17 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人
 人を解放してくださるためでした。
 18 主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブ
 ラハムの子孫を助けてくださるのです。
 19 そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、
 忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たち
 と同じようにならなければなりません。それは
 民の罪のために、なだめがなされるためなのです。
 20 主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試み
 られている者たちを助けることがおできになるので
 す。

1744:2 Ps.22

「わたしは彼に信頼する。」
 13 またさらに、
 14 「わたしは彼に信頼する。」
 15 「見よ、わたしと、神がわたしに賜わった子たち
 は。」

5 神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたち
 6 たちに従わせることはなさらなかったのです。
 7 6 むしろ、ある個所で、ある人がこうあかししていま
 す。
 「人間が何者だというので、
 8 これをみこころに留められるのでしよう。
 9 人の子は何者だというので、
 10 これを顧みられるのでしよう。
 11 あなたは、彼を、
 12 御使いよりも、しばらくの間、低いものとし、
 13 彼に栄光と誉れの冠を与え、
 14 万物をその足の下に従わせられました。」
 15 万物を彼に従わせたとき、神は、彼に従わないものを
 16 何一つ残されなかったのです。それなのに、今でもな
 17 お、私たちはすべてのものが人間に従わせられている
 18 のを見てはいません。
 19 9 だが、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方
 10 であるイエスのことは見ています。イエスは、死の苦
 11 しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。
 12 その死は、神の恵みによって、すべての人のために味
 13 わわれたものです。

苦しみと通い兄弟を救う.

苦しみと通い栄光冠.

(祝福)

神の家を忠実に守る。

私たちは神の家とある。

3

1 素晴らしいわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。

2 モーセが神の家全体のために忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実なものです。3 家よりも、家を建てる者が大きな栄誉を持つのと同時に、イエスはモーセよりも大きな栄光を受けるのにふさわしいとされました。

4 家はそれぞれ、だれかが建てるのですが、すべてのものを造られた方は、神です。

5 モーセは、しもべとして神の家全体のために忠実でした。それは、後に語られる事をあかしするためでした。しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。

7 ですから、聖霊が言われるとおどります。

8 「さよう、もし御声を聞くならば、荒野での試みの日に、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」

9 あなたがたの先祖たちは、そこでわたしを試みて証拠を求め、四十年の間、わたしのわざを見た。だから、わたしはその時代を憤って言った。彼らは常に心が迷い、わたしの道を悟らなかつた。

10 わたしは、怒りをもって誓ったように、決して彼らをわたしの安息にはいらせない。」

11

怒って誓った。

不信仰に怒る。

不信仰に怒る。

12 兄弟たち。あなたがたの中には、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がなくないように気をつけなさい。

13 「さよう。」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようになささい。

14 もし最初の確信を終わりでしつかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。

15 「さよう、もし御声を聞くならば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」と言われているからです。

16 聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありませんか。

17 神は四十年の間だれを怒っておられたのですか。罪を犯した人々、しかばねを荒野にさらした、あの人たちをではありませんか。

18 また、わたしの安息にはいらせないと言われたのは、ほかでもない、従おうとしなかった人たちのことではありませんか。

19 それゆえ、彼らが安息にはいらなかったのは、不信仰のためであったことがわかります。

10-12 18 H9185
- 324 節

きょう
その日

声と心 = 信仰

安息に入らざる者

4

1 こういうわけで、神の安息にはいるための約束はまだ残っているのですから、あなたがたのうちのひとりでも、万が一にもこれにはいれないようなことのないように、私たちは恐れる心を持つてはありませんか。

2 福音を説き聞かされたことは、私たちも彼らと同じなのです。ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。*みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかったからです。

3 信じた私たちは安息にはいるのです。

安息はあり

「わたしは、怒りをもって誓ったように、決して彼らをわたしの安息にはいらせない。」と神が言われたとおりです。みわざは創世の初めから、もう終わっているのです。

4 というのは、神は七日目について、ある個所で、「そして、神は、すべてのみわざを終えて七日目に休まれた。」と言われました。

5 そして、ここでは、「決して彼らをわたしの安息にはいらせない。」と言われたのです。

安息に入る人を探している

6 こういうわけで、その安息にはいる人々がまだ残っており、前に福音を説き聞かされた人々は、不従順のゆえにはいれなかったのですから、

7 神は再びある日を「きよう。」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、「きよう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」と語られたのです。

8 もしヨシユアが彼らに安息を与えたのであったら、神はそのあとで別の日のことを話されることはなかったでしょう。

9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。

不従順に子ら

10 神の安息にはいった者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。

11 ですから、私たちは、この安息にはいるよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。

12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやばかりことを判別することができます。

13 造られたもので、神の前で隠れおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をすることができません。



徒順に於大祭司.

(とこしえ)

死者の中が導き出された. 神の子(7:3)

なえられたのです。
10 神によって、メルキゼデクの位に等しい大祭司と

7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。

6 別の個所で、こうも言われます。
「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」

Ps 110

4 まただれでも、この名譽は自分で得るのではなく、アロンのように神に召されて受けるのです。
5 同様に、キリストも大祭司となる榮譽を自分で得られたのではなく、彼に、

Ps 2

「あなたは、わたしの子。」

2=3 記者. 2:17

大祭司

2:17

14 さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。

16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいで、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

5

1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、神に仕える事からについて人々に代わる者として、任命を受けたのです。それは、罪のために、ささげ物といけにえとをささげるためです。
2 彼は、自分自身も弱さを身にまといながら、無知な迷っている人々を思いやることのできるのです。
3 そしてまた、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のためのささげ物をしなければなりません。

10:26-31

モビリティ. 肉 vs 霊.

6

11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。
12 あなたがたは年数からすれば教師になつていなければならぬにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっていきます。
13 まだ乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。
14 しかし、堅い食物はおとなの物であつて、経験によつて良い物と悪い物を見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

肉ニえな

1 ですから、私たちは、キリストに就いての初歩の教えをあとにして、成からの回心、神に対する信仰、
2 きよめの洗ひについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。
3 神がお許しになるならば、私たちはそうすべきです。
4 一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、
5 神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わつたうえで、
6 しかも墮落してしまふならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与へる人たちだからです。
7 土地は、その上にはばれば降る雨を吸い込んで、これを耕す人たちのために有用な作物を生じらるなら、神の祝福にあずかります。
8 しかし、いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用のものであつて、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます。

完全. 2:17

約束の相続者

誓いは変えらる

9 だが、愛する人たち。私たちはこのように言いますが、あなたがたについては、もっと良いことを確信しています。それは救いにつながることです。

10 神は正しい方であって、あなたがたの行ないを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。

11 そこで、私たちは、あなたがたひとりひとりが、同じ熱心さを示して、最後まで、私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれるように切望します。

12 それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するあの人たちに、ならう者となるためです。

13 神は、アブラハムに約束されるとき、ご自分よりすぐれたものをさして誓うことがありえないため、ご自分をさして誓い、

14 こう言われました。「わたしは必ずあなたを祝福し、あなたを大いにふやす。」

15 こうして、アブラハムは、忍耐の末に、約束のものを得ました。

16 確かに、人間は自分よりすぐれた者をさして誓います。そして、確証のための誓いというものは、人間のすべての反論をやめさせます。

17 そこで、神は約束の相続者たちに、ご計画の変わらぬことをさらにはっきり示そうと思ひ、誓いをもって保証されたのです。

18 それは、変えることのできない二つの事からによって、——神は、これらの事からのゆえに、偽ることができません。——前に置かれてある望みを捕えるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。

19 この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな鑑の役を果たし、またこの望みは幕の内側にはいるのです。

20 イエスは私たちの先駆けとしてそこにはいり、永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司となられました。

7
1 このメルキゼデクは、サレムの王で、すぐれて高い神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎え出て祝福しました。

2 またアブラハムは彼に、すべての戦利品の十分の一を分けました。まず彼は、その名を訳すと義の王であり、次に、サレムの王、すなわち平和の王です。

3 父もなく、母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっているのです。

4 その人がどんなに偉大であるかを、よく考えてごらんください。族長であるアブラハムでさえ、彼に一番良い戦利品の十分の一を与えたのです。

5 レビの子らの中で祭司職を受ける者たちは、自分もアブラハムの子孫でありながら、民から、すなわち彼らの兄弟たちから、十分の一を徴集するようにと、律法の中で命じられています。

6 ところが、レビ族の系図にない者が、アブラハムから十分の一を取って、約束を受けた人を祝福したのです。

7 いうまでもなく、下位の者が上位の者から祝福されるのです。

8 一方では、死ぬべき人間が十分の一を受けていますが、他のばあいは、彼は生きてるとあかしされている者が受けるのです。

9 また、いうならば、十分の一を受け取るレビでさえアブラハムを通して十分の一を納めているのです。

10 というのは、メルキゼデクがアブラハムを出迎えたときには、レビはまだ父の腰の中にいたからです。

祭司職
+カア

約束の祝福

アブラハム
約束
祝福

新法の祭司制度にはよらず、25章から

11 さて、もしレビ系の祭司職によって完全に到達で
きたのだらたら、——民はそれを基礎として律法を与
えられたのです。——それ以上何の必要があって、ア
ロンの位でなく、メルキゼデクの位に等しいと呼ばれ
る他の祭司が立てられたのでしようか。
12 祭司職が変われば、律法も必ず変わらなければなり
ませんが、
13 私たちが今まで論じて来たその方は、祭壇に仕える
者を出したことの無い別の部族に属しておられるので
す。
14 私たちの主が、ユダ族から出られたことは明らかで
すが、モーセは、この部族については、祭司に関する
ことを何も述べていません。
15 もしメルキゼデクに等しい、別の祭司が立てられる
のなら、以上のことは、いよいよ明らかになります。
16 その祭司は、肉についての戒めである律法にはよら
ないで、朽ちることのない、いのちの力によって祭司
となったのです。
17 この方については、こうあかしされています。
「あなたは、とこしえに、
メルキゼデクの位に等しい祭司である。」
18 一方で、前の戒めは、弱く無益なために、廃止され
ましたが、
19 律法は何事も全うしなかったのです。——他方
で、さらにすぐれた希望が導き入れられました。私た
ちはこれによって神に近づくのです。

祭司職

律法

前の戒めとほかに、
は全うしなかった。

誓いほとこしえ

20 また、そのためには、はっきりと誓いがなされてい
ます。
21 彼らのばあいは、誓いなしに祭司となるのです
が、主のばあいは、主に対して次のように言われた
方の誓いがあります。
「主は誓ってこう言われ、
みこころを変えられることはない。
あなたほとこしえに祭司である。」
22 そのようにして、イエスは、さらにすぐれた契約の
保証となられたのです。
23 また、彼らのばあいは、死ということがあるため、
務めにいつまでもとどまることができず、大ぜいの者
が祭司となりました。
24 しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、
変わることはない祭司の務めを持っておられます。
25 したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完
全に救うことができになります。キリストはいつも
生きていて、彼らのために、とりなしをしておられる
からです。
26 また、このようにきよく、悪も汚れもなく、罪人
から離れ、また、天よりも高くされた大祭司こそ、私
たちにとってまさに必要な方です。
27 ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自
分の罪のために、その次に、民の罪のために毎日いけ
にえをささげる必要はありません。というのは、キリ
ストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し
遂げられたからです。
28 律法は弱さを持つ人間を大祭司に立てますが、律法
のあとから来た誓いのみことばは、永遠に全うされた
御子を立てるのです。

とこしえの御子

とこしえ

8

1 以上述べたことの要点はこうです。すなわち、私たちの大祭司は天

におられる大能者の御座の右に着座された方であり、
2 人間が設けたのではなくて、主が設けられた真実の
幕屋である聖所で仕えられる方です。

3 すべて、大祭司は、ささげ物といけにえとをささげ
るために立てられます。したがって、この大祭司も何
かささげる物を持っていなければなりません。

4 もしキリストが地上におられるのであったら、決して
祭司とはならないでしょう。律法に従ってささげ
物をする人たちがいるからです。

5 その人たちは、天にあるものの写しと影とに仕えて
いるのであって、それらはモーセが幕屋を建てようと
したとき、神から御告げを受けたとおりのものです。

神はこう言われたのです。「よく注意しなさい。山で
あなたに示された型に従って、すべてのものを作りな
さい。」

しかし今、キリストはさらにすぐれた務めを得られ
ました。それは彼が、さらにすぐれた約束に基づいて
制定された、さらにすぐれた契約の仲介者であるから
です。

7 もしあの初めの契約が欠けのないものであったなら、
後のものが必要になる余地はなかったでしょう。
しかし、神は、それに欠けがあると、こう言わ
れたのです。

主が、言われる。
見よ。日が来る。

わたしが、イスラエルの家やユダの家と
新しい契約を結ぶ日が。

それは、わたしが彼らの先祖たちの手を引いて、
彼らをエジプトの地から導き出した日に
彼らと結んだ契約のようなものではない。
彼らがわたしの契約を守り通さないの、
わたしも、彼らを顧みなかったと、
主は言われる。

それらの日の後、わたしが、
イスラエルの家と結ぶ契約は、これであると、
主が言われる。

わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、
彼らの心に書きつける。

わたしは彼らの神となり、
彼らはわたしの民となる。

また彼らが、おのおのその町の者に、
また、おのおのその兄弟に教えて、
「主を知れ。」と言うことは決してない。
小さい者から大きい者に至るまで、
彼らはみな、わたしを知るようになるからである。
なぜなら、わたしは彼らの不義にあわれみをかけ、
もはや、彼らの罪を思い出さないからである。」

12

13 神が新しい契約と言われたときには、初めのものを
古いとされたのです。年を経て古びたものは、すぐに
消えて行きます。

9

1 初めの契約にも礼拝の規定と地上
の聖所とがありました。

2 幕屋が設けられ、その前部の所には、燭台と机と供
えのパンがありました。聖所と呼ばれる所です。

3 また、第二の垂れ幕のうしろには、至聖所と呼ばれ
る幕屋が設けられ、
4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の
箱があり、箱の中には、マナのはいた金のつぼ、芽
を出したアロンの杖、契約の二つの板がありました。

5 また、箱の上には、贖罪蓋を翼でおおっている栄光
のケルビムがありました。しかしこれらについては、
今いちいち述べるできません。

6 さて、これらの物が以上のように整えられた上で、
前の幕屋には、祭司たちがいつもはいつて礼拝を行な
うのですが、
7 第二の幕屋には、大祭司だけが年に一度だけは入り
ます。そのとき、血を携えずにはいるようなことはあ
りません。その血は、自分のために、また、民が知ら
ずに犯した罪のためにささげるものです。

8 これによって聖霊は次のことを示しておられます。
すなわち、前の幕屋が存続しているかぎり、まことの
聖所への道は、まだ明らかにされていないということ
です。

9 この幕屋はその当時のための比喩です。それに従っ
て、ささげ物といけにえとがささげられますが、それ
らは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。

10 それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いに關する
もので、新しい秩序の立てられる時まで課せられた、
からだに關する規定にすぎないからです。

11 しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事
がら大祭司として来られ、手で造った物でない、言
い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大
な、さらに完全な幕屋を通り、
12 また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分
の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永
遠の贖いを成し遂げられたのです。

13 もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々
に注ぎかけると、それが聖めの働きをして肉体をきよ
いものにするとなれば、
14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの
御霊によって神におささげになったその血は、どんな
にか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、
生ける神に仕える者とするでしょう。

血にまつ新幕屋に入る。

7/10

キリストの死によって新契約が有効になる

15 **こういうわけで**、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。

16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。

17 遺言は、人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は、決して効力はありません。

18 したがって、初めの契約も血なしに成立したわけではありません。

19 モーセは、律法に従ってすべての戒めを民全体に語って後、水と赤い色の羊の毛とヒソプとのほかに、子牛とやぎの血を取って、契約の書自体にも民の全体にも注ぎかけ、

20 これは神があなたがたに対して立てられた契約の血である。と言いました。

21 また彼は、幕屋と礼拝のすべての器具にも同様に血を注ぎかけました。

22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。

23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられる必要がありました。しかし天にあるものは、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。

24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所にはいられたのではなく、天そのものにはいられたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現われてくださるのです。

25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所にはいる大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることがなさいません。

26 もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。

27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられました。二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

10

1 律法には、後に来るすばらしいものの影はあっても、その実物はないいけにえによって神に近づいて来る人々を、完全にすることができないのです。

2 もしそれができたのであったら、礼拝する人々は、一度きよめられた者として、もはや罪を意識しなかったはずであり、したがって、ささげ物をする必要は、やんではずです。

3 ところがかえって、これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるのです。

4 雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。

5 ですから、キリストは、この世界に来て、こう言われるのです。

「あなたは、いけにえやささげ物を望まないで、

わたしのために、からだを造ってくださいました。

あなたは全焼のいけにえと

罪のためのいけにえとで

満足されませんでした。

そこでわたしは言いました。

「さあ、わたしは来ました。

聖書のある巻に、

わたしについて行なうとおり、

神よ、あなたのみこころを行なうために。」

すなわち、初めには、「あなたは、いけにえとささげ物、全焼のいけにえと罪のためのいけにえすなわち、律法に従ってささげられる、いろいろの物を望まず、またそれらで満足されませんでした。」と言い、

9 また、「さあ、わたしはあなたのみこころを行なうために来ました。」と言われたのです。後者が立てられるために、前者が廃止されるのです。

10 このみこころに従って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。

11 また、すべて祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。

12 しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、

13 それからは、その敵がご自分の足台となるのを待つておられるのです。

14 キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。

15 聖霊も私たちに次のように言って、あかしされます。

16 「これらの日の後、わたしが、

彼らと結びうとしている契約は、これであると、主は言われる。

わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いに書きつける。」

またこう言われます。

17 「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法を思い出すことはしない。

18 これらのことが赦されるところでは、罪のためのささげ物はもはや無用です。」

詩40:6-8

しょうじやいか

信仰者の忍耐

神に近づく 聖所に入る

イエスの血 - 10章

10:

希望 信仰

19 こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができるのです。

20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。

21 また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。

22 そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。

23 約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。

24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。

25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいてくるのを見て、ますますそうしようではありませんか。

忍耐

契約の血 - 死刑 6:1-8

26 もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。

27 ただ、さばきと、逆らう人たちを焼き尽くす激しい火とを、恐れながら待つよりほかはないのです。

28 だれでもモーセの律法を無視する者は、二、三の証人のことばに基づいて、あわれみを受けることなく死刑に処せられます。

29 まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。

30 私たちは、「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする」、また、「主がその民をさばかれる。」と言われる方を知っています。

31 生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。

32 あなたがたは、光に照らされて後、苦難に会いながら激しい戦いに耐えた初めのころを、思い起こしなさい。

33 人々の目の前で、そしりと苦しみを受けた者もあれば、このようなめに会った人々の仲間になった者もありました。

34 あなたがたは、捕えられている人々を思いやり、また、もつとすぐれた、いつまでも残る財産を持っていることを知っていたので、自分の財産が奪われても、喜んで忍びました。

35 ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりません。それは大きな報いをもたらすものなのです。

36 あなたがたが神のみところを行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。

37 「もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。わたしは、恐れ退くなら、わたしは信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのところは彼を喜ばない。」

39 私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

忍耐せよ

Ps 120, 124

あきらめよ

忍耐

目見子
Is 12.1.123

見え子いおを悟子

信仰証し

証し

見え子

相統地

子孫

11

ものです。

2 昔の人々はこの信仰によって称賛されました。

3 信仰によって、私たちは、この世界が神の**証し**の**目**に

造られたことを悟りましたが、見えるものが目に

見えるものからできたのではないことを悟るのです。

4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけ

にえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であ

ることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良

いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は

死にしましたが、その信仰によって、今もなお語ってい

ます。

5 信仰によって、エノクは死を見ることのないように

移されました。神に移されて、見えなくなりました。

移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかし

されていきました。

6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。

神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者

には報いてくださる方であることを、信じなければ

ならないのです。

7 信仰によって、ノアは、まだ見えていない事ながらにつ

いて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その

家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、

世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。

8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け

取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに

従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。

9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のように

して住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブ

とともに天幕生活をしました。

10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでい

たからです。その都を設計し建設されたのは神です。

11 信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身で

あるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束

してくださった方を真実な方と考えたからです。

12 そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハ

ムから、天の星のように、また海への数えきれない砂

のように数多い子孫が生まれたのです。

1 信仰は望んでいゝ事からを保証し、目に見えないものを確信させる

証し

地旅人

13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

14 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていゝことを示しています。

15 もし、出て来た故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会があったでしょう。

16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すな

わち天の故郷にそこがいられたのです。それゆえ、神

は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。

事実、神は彼らのために都を用意しておられました。

天の故郷

聖所

旅人寄留者

みえ子、約束信い子

信仰に子義

— 約束の都に人子

敵が来る 王を恐れろ
(25に)

生 滅

苦難を遂ぐ 王を恐れろ
(25に)

死 祝福

民の救い

イサクの救い

17 信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていたが、自分のただひとりの子をささげたのです。

18 神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる」と言われたのですが、

19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。

20 信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤコブとエサウを祝福しました。

21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福せ、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました。

22 信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました。

23 信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。

24 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、

25 はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

26 彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかつたのです。

27 信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。

28 信仰によって、初子を滅ぼす者が彼らに触れることのないように、彼は過越と血の注ぎとを行ないました。

29 信仰によって、彼らは、かわいた陸地を行くのと同時に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしたが、のみこまれてしまいました。

30 信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁はくずれ落ちました。

31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちに穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。

Ps 120. 124

さらに苦しむ

苦難

よみがえり

敵

信じて恐れろ
よみがえりを信じよ
— 約束はいち

32 これ以上、何を言いましようか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても話すならば、時間が足りないでしょう。

33 彼らは、信仰によって、国々を征服し、正しいことを行ない、約束のものを得、ししの口をふさぎ、

34 火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れましました。

35 女たちは、死んだ者をよみがえらせていただきました。またほかの人たちは、さらにすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを願わないうで拷問を受けました。

36 また、ほかの人たちは、あざけられ、むちで打たれ、さらに鎖につながれ、牢に入れられるめに会い、

37 また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、

38 — この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした。—— 荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。

39 この人々はみな、その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。

40 神は私たちがのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたので、彼らが私たちと別に全うされるといふことはなかつたのです。

祝福

民の救い

Ps 120

Ps 124

Ps 123

人の救い

民の救い

Ps 127 勇士 剣

イエスと同じように雲の父の訓練を受けている

3809
3810
3811

12

「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」

2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもとせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

3 あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。

4 あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことがあります。

5 そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。

「わが子よ。」

主の懲らしめを軽んじてはならない。

主に責められて弱り果ててはならない。

6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、

むちを加えられるからである。

7 訓練と思つて耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることを

しない子がいるでしょうか。

8 もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であつて、ほんとうの子ではないのです。

9 さらにまた、私たちに肉の父がいて、私たちに懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬つたのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。

10 なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が思うままに私たちに懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。

11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえつて悲しく思われるものですが、後になると、これによつて訓練された人々に平安な義の実を結びます。

互いの平和を求めよう

申8:5

Ps 126 涙食

木根人

12 ですから、弱つた手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。

13 また、あなたがたの足のためには、まっすぐな道を作りなさい。足なえの人も関節をはずすことのないため、いやむしろ、いやされるためです。

14 すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。

15 そのためには、あなたがたはよく監督して、だれも神の恵みから落ちる者がないように、また、苦い根が芽を出して悩ましたり、これによつて多くの人が汚されたりすることのないように、

16 また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであつた長子の権利を売つたエサウのような俗悪な者がいないようにしなさい。

17 あなたがたが知っているとおおり、彼は後になつて祝福を相続したいと思つたが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもらう余地がありませんでした。

34:14

35

イエスの天の御国に近づいている。

相争人、相争分。

18 あなたがたは、手でさわれる山、燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、

19 ラッパの響き、ことばのとどろきに近づいているのではありません。このとどろきは、これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったものです。

20 彼らは、「たとい、獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならぬ。」というその命令に耐えることができなかったのです。

21 また、その光景があまり恐ろしかったので、モーセは、「私は恐れて、震える。」と言いました。

22 しかし、あなたがたは、シオン^{シオン}の山、生ける神の都^{シオン}にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。

23 また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、

24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。

25 語っておられる方を拒まないように注意しなさい。なぜなら、地上においても、警告を与えた方を拒んだ彼らが処罰を免れることができなかったとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありませんか。

26 あのとときは、その声^{その声}が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」

27 この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。

28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けられているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができますのです。

29 私たちの神は焼き尽くす火です。

Ps125. 信頼。シオン山が近づくことなし。

互いに恵み? 恵み。

13

1 兄弟愛をいつも持つていなさい。

2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。

3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやり、また、自分も肉体を持つているのですから、苦しめられている人々を思いやりなさい。

4 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とをさばかれるからです。

5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。
「主は私の助け手です。私は恐れませんが、人間が、私に対して何ができませんよう。」

正しい者。

神に近づく / 新約の物
都、相争分、捧喜
平和、シオンの良、感謝、賛美。

新しい心で / 新約の人
子、相争人、忍耐。
いのち 死 ①(40)

善の心よ

Ps118

Ps124
主は助け手

申31:6.
コリ2:1:5.

元元

長 イエスのいけにえ

13:

7 神のみことはあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならないなさい。

8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

9 さまざまの異なった教えによって迷わされてはなりません。食物によってではなく、恵みによって心を強めるのは良いことです。食物に気を取られた者は益を得ませんでしよ。

10 私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕える者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。

11 動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。

12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。

14 私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。

15 ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくらびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。

16 善を行なうことと、持ち物を人に分けることを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。

17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。

短 イエスのいけにえ

きよめとけいこ

18 私たちのために祈ってください。私たちは、正しい良心を持つていると確信しており、何事についても正しく行動しようとして願っているからです。

19 また、もつと祈ってください。さう特にお願ひします。それだけ、私があなたがたのところに早く帰れるようになるからです。

20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、

21 イエス・キリストにより、御前でみことろにかなうことを私たちのうちに行ない、あなたがたがみことろを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

22 兄弟たち。このような勧めのこぼを受けてください。私はただ手短に書きましたから。

23 私たちの兄弟テモテが釈放されたことをお知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼といっしょにあなたがたに会えるでしょう。

24 すべてのあなたがたの指導者たち、また、すべての聖徒たちよろしく言うてください。イタリアから来た人たちが、あなたがたによろしくと言っていきます。

25 恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

Trust

つねに賛美せよ。良い行ない。

兄弟愛-いけにえ

礼拝

自由。解放。(結末の34)

自由

礼拝(忍辱せざるに)